

平成 25 年 度

(自 平成 25 年 4 月 1 日～至 平成 26 年 3 月 31 日)

事業報告書

公益財団法人 京都国際学生の家

事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。

開館以来 49 年間に、寮生用 34 室を利用した寮生は世界の 79 ケ国から 938 名、併設されている研究員用 14 室を利用した学者、研究者は 94 ケ国から 2922 名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

平成 20 年 12 月 1 日より新公益法人制度の施行が行われることが判明し、開館以来 49 年の歴史ある当財団の「寄附行為」に書かれた目的、事業、機関、財務などについて、現状の総点検及び問題点への対策を検討してきた。その結果、本財団の更なる発展のためには、旧「財団法人」から新「公益財団法人」に移行すべきであるとの理事会決定（平成 19 年 5 月 20 日開催の第 190 回理事会）がなされた。そして、平成 23 年度 3 月 31 日付けで書類を整え、公益財団法人への移行認定申請を行い、平成 25 年 4 月 1 日、公益財団法人京都国際学生の家として移行登記を完了した。

当年度は、新法人として第 1 期を迎え、新たな一歩を踏み出した。しかし、今年度に当財団の建物の耐震診断を行った結果、耐震補強が必要であることが判明した。そこで、将来計画委員会を立ち上げを構想し、建物の建て替えも踏まえた、当財団の将来のあり方の検討を開始した。

I. 事業の概況

1) 公1 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	14 室	研究者用にはツインルーム 5 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（平成 25 年 4 月より平成 26 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	13	京都大学	31
中国	3	立命館大学	2
韓国	3	同志社大学	1
ベトナム	3	その他	4
タイ	3		
ドイツ	3		
モンゴル	2		
オランダ	1		
リトアニア	1		
ロシア	1		
オーストラリア	1		
ブラジル	1		
ニュージーランド	1		
チリ	1		
スイス	1		
合 計	38	合 計	38

○研究者・学者の部

日本	5	インドネシア	1
中国	5	ウクライナ	1
ドイツ	3	オーストラリア	1
イギリス	2	カナダ	1
オーストリア	2	チリ	1
韓国	2	ネパール	1
スイス	2	バーレーン	1
タイ	2	ハンガリー	1
台湾	2	ベトナム	1
アメリカ	1	ロシア	1
インド	1		
		合 計	37

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、日本人の一家族が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動している。

2) 公2 国際親善と相互理解の増進に寄与する事業

行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事(当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など)を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備(共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等)を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

(1) 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19:30~21:00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18:30~20:30 コモン・ミール (夕食会)

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であり、道場だと考えている。「食べる」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることのできる行為だと私たちは考えて行っている。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミールの後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

(2) 年間定例行事

○新入生歓迎会：平成25年4月13日(土)、10月12日(土)

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウスコミッティの委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

○国際食べ物祭り：平成25年7月6日(土)

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附をして下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。用意した300食ほどが2時間ほどで完食された。

○感謝祭：平成 25 年 11 月 16 日（土）

学寮に寄附して下さった方々や団体、日頃お世話になっている人達をご招待して、各国のお国自慢の料理の腕を振るい、感謝の気持ちと学寮が多くの人達の善意で成立していることを理解する定例行事が行われた。

○ 小旅行：

前期：平成 25 年 6 月 22 日（土）、23 日（日） 山城自然公園

ハウスから外出し、日本の美しい自然と木須川沿いの仁者仏閣、特に養蚕の神を祀った綺原神社に訪れ日本の文化の源流に触れると共に、寮生お互いの親睦と相互理解を図る目的で行われた。綺原神社（養蚕業をもたらした泰一族の氏神）に参拝、ログハウス、バンガローに宿泊し、森林で自然に触れながら、バーベキュー、花火などを楽しんだ。

後期：平成 25 年 11 月 30 日（土）、12 月 1 日（日）大原方面

ハウスから外出し、日本の独特の風習である「共同浴場」の体験や、「仏教音楽 声明」の聖地であり、「念仏に」による祈り里として極楽往生を願う大原の里三千院に訪れ日本文化を体感しながら、寮生お互いの親睦と相互理解を図る目的で行われた。田園散策、寺院拝観で紅葉を楽しむ。温泉に入り日本のお風呂文化を満喫した。

○セミナー

前期：平成 25 年 5 月 25 日（土）

日本文化の特徴である墨絵と絵手紙を体験した。

後期：平成 26 年 1 月 11 日（土）

ラテ・アートの実習（コーヒーを飲み、その香りや味を楽しむ文化から、見て楽しむコーヒー文化を体験した。

○ スポーツ大会：平成 25 年 5 月 11 日（土）、平成 25 年 10 月 26 日（土）

年に 2 度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を行った。

○ダンスパーティ：平成 25 年 6 月 8 日（土）

年に 1 度、友人や知り合いを招待して、交流や親睦をはかると共に、学寮の宣伝を兼ねた行事（ダンスパーティ）を開催した。また、本行事は、「チーム」の活動資金を調達する目的もある。

○ クリスマス・パーティ：平成 25 年 12 月 7 日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。学寮の役員、親しい友人やOB 達を招待して、自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○ クリーニング・デイ（大掃除）：平成 25 年 7 月 7 日（日）、12 月 8 日（日）

年に 2 度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、運動場などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

以上のほか、国際ソロプチミストの招待を受けて、日本の文化や歴史を学習して、国際交流に努めた。

(3) 図書 の 刊 行 頒 布

会誌等の刊行：「2013 年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。

3) 収 1 不 動 産 等 の 管 理 と 運 営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 19 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。その他、当学寮生・研究者等の利便性ために自動販売機を 1 台設置している。

Ⅱ. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内海博司	京都大学名誉教授
常務理事	山本将史	独立行政法人国際協力機構職員 (2014. 2. 28 まで)
	北島 薫	京都大学農学研究科教授 (2014. 3. 21 より)
理事	上村多恵子	京南倉庫(株) 代表取締役社長
	木戸康博	京都府立大学教授
	村田翼夫	京都女子大学教授
	嘉田良平	京都大学教授
	吉村一良	総合地球環境学研究所教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
監事	琴浦良彦	市立長浜病院名誉院長
	浅田拓史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	吉川晃史	熊本学園大学講師、公認会計士
	折田康広	弁護士
学寮運営委員長	山田祐仁	辻調理専門学校
学寮運営委員	秋津元輝	京都大学准教授
	大島義信	京都大学准教授
	坂口貴司	三菱電機(株)
	鈴木在乃	京都大学職員
	田島勇人	松下電器(株)
	タナゴナン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸口田 淳也	京都大学教授
	松橋 眞生	元ハウス・ファーマー
	山本将史	ハウス・ファーマー (2014. 2. 28 まで)
	山本理子	ハウス・マザー (2014. 2. 28 まで)
	PHILLIPS Joseph A.	ハウス・ファーマー (2014. 3. 21 より)

北 島 薫 ハウス・マザー（2014.3.21より）

2) 評議員

岩 崎 隆 二 和晃技研(株)代表取締役社長
中 島 理一郎 元同志社大学教授
吉 田 和 男 京都大学名誉教授
秋 山 雅 義 京都工芸繊維大学教授
西 尾 英之助 京都日独協会会長
山 田 祐 仁 辻調理専門学校

3) 顧 問

所 久 雄 社会福祉法人
京都国際社会福祉協力会理事長
神 田 啓 治 京都大学名誉教授
シュペネマン クラウス 同志社大学名誉教授
平 松 幸 三 京都大学名誉教授
森 棟 公 夫 椋山女学園大学教授
柴 田 光 蔵 京都大学名誉教授

4) 職員

氏 名	担 当 事 務	備 考
樋 口 洋 子	法人事務及び経理事務等	
清 水 良 子	受付業務などの庶務事務	
吉 竹 慶 一	学寮の維持管理（学寮外周り）	
西 由 美 子	〃 （学寮内部）	

5) 後援会員 （詳細についてはイヤーズブックに記載。）

法人会員 12
個人会員 39
OB会員 378

6) 理事会

回・年 月 日	議 題	結果
第1回・ 平成 25. 6. 16	1. 第 202 回理事会議事録（案）について 2. 平成 24 年度事業報告（案）について 3. 平成 24 年度財務諸表等（案）について 4. 諸規程の制定及び改正の承認 5. 定時評議員会招集及び提出議案の承認 6. 将来計画について 7. その他 報告：土地契約問題について 平成 25 年度事業計画案について その他	承認 承認 承認 承認 承認 了承
第2回・ 平成 25. 12. 27	1. 新ハウスペアレンツ候補について	承認
第3回・ 平成 26. 3. 8	1. 第 1 回、第 2 回理事会議事録について 2. 平成 26 年度事業計画について 3. 平成 26 年度予算について 4. 後援会規則の改定について 5. 将来計画委員会の設立について 6. 学寮管理運営規程、学寮運営委員会規程の制定について 7. 第 4 回評議員会の開催について 8. その他 報告：新ハウスペアレント理事北島薫先生の紹介 税金控除のための寄附者集めの状況について HdB の耐震問題について	承認 承認 承認 承認 了承 了承 承認

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（後援会費を除く）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

文字健二、山口忠彦、坂野泰治、岡村圭造、鈴木松郎、富永芳徳、山岸秀夫、金盛彦、阿部光幸、小暮智一、三戸宏之、本庄嘉子、金澤成保、岩沼省吾、近藤哲理、窪田弘、篠山美智子、川野家稔、木葉丈司、清水勇、高島修一、田中徳壽、福本和久、永井千秋、中山宏太郎、加藤哲雄、森棟公夫、平見松夫、小西淳二、岡本徳子、渡辺信喜、吉村俊之、寺本美智子、柏原正樹、成田康昭、崎本襄、前上英二、柳田由紀子、岡野純、中島理一郎、西尾共子、西尾英之助、内海匡人、福田知子、長田哲也、中山嗣律子、山口武夫、上西なつみ、レヴィ アルヴァレス、村瀬哲司、林茂、平田英子、平田康夫、西原英晃、小川侃、大鹿康廣、シュペネマン・クラウス、小島紀子、小島和典、舩津雅夫、大畑浩志、木下和久、市原勇一、飛田努、杉山茂、奥山格、服部恭子、前谷俊三、石原隆司、木下研一、吉永幸司、溝口俊子、原田始子、岡室秀子、三好緑、斉藤信子、森八栄子、土田星香、棚橋久美子、土田政弘、古谷久仁子、高柳正子、高柳淳、小野健太郎、松橋眞生、浦山慎一・志瑞子、Dinh Ha Duy Thuy、福山秀直、アルトマン クリスチャン、石井佳世子、高橋洋子、高橋晴雄、檜橋創、小野寺雄哉、皆川和吉、堀久美子、加藤秀子、小野寺良信、坂口貴司、笹山忠則、田井康雄、木村達彦、山口満、澤村信英、由田春人、船引卓三、江口翠、岩田理佐、岩田忠久、長谷川晶、長谷川靖子、篠原巨司馬、宮本真理子、宮本博之、有限会社杉本、喜多俊雄、木原文太左右衛門、杉本節子、藤堂剛、真鍋武紀、金宮吉美、樋口順一、品治重忠、石原英輝、新居哲、村崎直美、三浦昌代、石田栄子、福本学、小池弘美、HENG PHALA、上田学、倉川妙子、服部秀男、西仁実、吉村麻菜、植田浩明、道岡千城、可児光永、百瀬孝昌、村上拓人、中村彰恵、国岡恵心、鎌野幸子、小笠原浩方、岩槻知也、入倉孝次郎、浦尾恵子、浦尾恭正、浦尾真一、浦尾たか子、上村貴子、松瀬清、福山義雄、中藪文子、宮川弘美、竹村悦二、猪原務、Kansup Jeeraporn、元生紀子、秋山雅義、北岡英希、竹本秀人、秋山兵衛、廣野史子、西原千藏、森田正樹、山本宮子、天木由香、鈴木宏康、小西華子、吉村由依子、増田忠義、村田隆、田中勝也、佐藤浩人、矢尾田清司、岡本高子、津和冴香、高田尚子、大本純子、山本夏子、山本雅英、片田真悠子、稲垣和子、山本正之、池田由紀彦、石川亜澄、伊藤定勝、小野寺良則、小野寺明佳、吉竹慶一、福山美紀子、松原由紀子、内海清司、内海作美、眞武俊輔、西木晴彦、植島慎介、鈴木辰彦、松本理佐、井上丈揮、ロッケンバッハ浄、寺澤広基、福田翔平、内藤翔、Johann Schaller、内村しのぶ、松田敬一、山本雄久、内村産婦人科内村道隆、矢島脩三、橋本耕子、喜多裕子、(株)メロス カンタトーレ ドメニコ、橋本恵美子、喜多淳造、橋本修、橋本聡、山本攻、田附俊一、佐藤義彦、安田恵子、株式会社ヤスダモデル、安田一真、仲井亮丈、笠井博有、大関孝一、小尾末吉、山口由太郎、日高康輔、磯部雄大、鈴木喜六、東海林勤、戎井重樹、岡田仁、春見静子、秋山眞兄、藪田安晴、所久雄、鈴木伶子、稲垣千晶、北島熙

子、北島万里、江崎芳雄、岩崎隆二、和晃技研株式会社、株式会社吉晃、竹村幸子、本間あさひ、甘田聡、岡本紀男、下荒地勝治、松木文朗、平野真理、石橋光朗、ムナ マハラジャン、ケシヤブ ラル マハラジャン、友澤弘、大岡重行、辻正樹、翠川修、吉井淳司、吉井咲子、福井敏明、梶慶輔、尾崎百合子、川島秀一、川端一彌、谷包和、鴨下礼二郎、三上園子、竹本麻衣、中山道子、井上伊登子、中山佐登子、横山俊夫、田中三千彦、カールハインツ フォイヤヘアト、高倉孝一、鴨下祐介、柳堀彰一、山上和則、武田英莉、天野敏彦、田中かよ、富本智子、中村由江、田中尚子、田中久雄、古作ケイ子、古作舞、吉原和恵、高田徳子、牧賢治、柴田俊忍、片山一道、高木由臣、辻村哲夫、馬場博子、尾崎彦朔、村田勇治、武藤真理子、武藤禎信、尾田富一、西尾朝子、琴浦義尚、山上有美、東村敏延、土肥勝彦、薬師寺操、薬師寺由起子、藤野智恵、石川芳成、杉山裕子、中田明子、山寄恵子、中山久枝、仁藤英夫、杉山喬一、田中克彦、上田千紗、古田武、山岡幸二、岸田順一・静子、仲谷正博、仲谷博安、仲谷敏子、津田裕子、鈴木孝典、鈴木武夫、鈴木恵子、梅田耕也、森田辰郎、高木知弘、太田稔、外村中、今井潔、上杉敏江、松原多美子、伊藤久美子、覚張二郎、浅田晶史、足立洋、衣笠達夫、尻無濱芳崇、小高忠男、筒井智子、吉川昭一、社会福祉法人サン・アス会、藤原守正、宮崎昌弘、越山崇、杉本正幸、琴浦肇、川上哲典、浅見伊佐夫、谷博、豊永智規、熊坂勝美、椎名一喜、安原尚高、三木達至、勝俣雅司、西田公一、赤羽根靖隆、川原秀次、矢代正、小林由佳、中村初、齋藤健、宇津木基之、原義治、伊東辰巳、栗原広史、竹川裕二、竹川藤美、大久保茂雄、網島恵二、小林浩利、廣川譲、坂本孝雄、鈴木吉雄、安達継巳、津留崎睦雄、林信幸、松田和也、市川克一、上田嘉尚、中川仁、株式会社中川パッケージ、川勝依子、株式会社アナテック・ヤナコ、津川聡、鈴木重行、福田猛、吉村俊之、吉村隆之、山本将史、山本理子、ロイ詩百瑠、平沼樹里亜、ロイ利枝子、富永芳徳、程少文、辻秀彦、辻百合子、辻リベカ、伊藤康宏、戸田睦子、山田有信、山田祐仁、山田恵美、山田伸子、亀井久治、亀井龍治、Sucharit Koontanakulvong、古川千佳、光明和子、杉本寛一、野田和伸、樋山キミノ、杉本寛一、谷口平八郎、高木町、内海博司、琴浦良彦、村田翼夫、村松拓、大菅克知、伊藤宏樹、伊藤宏樹、今井芳郎、堀沙織、国際ソロプチミスト京都一たちばな

(2) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備考
外国人留学生 対策事業	京都市	1,000,000円	補助目的に応じた事業に支出

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。(円)

区 分	項 目	金 額
基 本 金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、 洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、 平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、 乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000